

県民総ぐるみ教育推進研修会（児湯地区）事例インタビュー

都農町域の実践事例（都農町）

～学校を核として地域で育てる「都農っ子」の育成～

取材日：令和2年11月30日（月）

聞き手：中部教育事務所 築地原連携推進アドバイザー

回答：都農町教育委員会 教育総務課 家庭教育係長 山之口 忍 氏
社会教育課 社会教育係長 吉永 真也 氏
都農町立都農小学校 教諭 甲斐 健二 氏

文責：中部教育事務所

Q1 都農小学校における地域と連携・協働した活動にはどのようなものがあるのでしょうか。

（甲斐）都農小学校は、地域の皆様に助けてもらっている学校です。地域といろいろと連携した活動がありますが、その中で一番大きいのが「おすずっ子祭り」です。この活動の目的は、

- 「おすずっ子祭り」をとおして、心豊かな児童の育成を目指す
- 地域や家庭との連携を深め、家庭や地域とともに歩む学校づくりを推進する
- 各種の活動をとおして、お礼も含めて表現力やコミュニケーション能力の育成を図る
ことです。

おすずっ子祭りの講師については、高齢者の方が多いのですが、社会教育課の方に依頼をし、吉永さんを始め、社会教育課で講師を探していただいています。昨年度は、10月26日が参観日も兼ねた祭りの日だったのですが、この日に参加できる方を探していただきました。

活動としては、郵便ポスト作り、おじゃみ、昔の遊び、絵手紙等様々あるのですが、講師の方により活動内容を決めています。決定したら、学校でどの活動をしたいかと子供たちにアンケートをとり、教務の方で活動人数を踏まえて割り振りをしています。その後、それぞれの活動の担当の先生を決め、担当は、活動の講師と連絡を取りながら、人数や活動内容、準備物等について打合せをします。

当日は、午前中に参観授業があり、午後から保護者も参加しての活動をそれぞれの場所で行います。終わりましたら、後日お礼の手紙を書いて、社会教育課を通して講師の方へ届けてもらっています。子供たちも保護者も講師の方も大変満足する活動です。

行うテーマ（講座）については、毎年参加される講師の方がおられますので、それにより決まりますが、少ないときは新しい方の掘り起こしを社会教育課の方にしていただき、12ぐらいのテーマを準備してもらっています。

（吉永）昨年度は、教務の先生から社会教育課へ連絡があり、それをコーディネーターが受け、学校と連絡を取り内容を聞きました。それから、コーディネーターが資料を基に前年度していただいた方に連絡を取りました。ピーズアクセサリーをしていただいた講師の方が当日不在ということで、教室で生徒だった方を紹介してもらいその方に代わりをしていただいたということが昨年度はありました。

昨年度は8月上旬までには、12活動中11の活動はどういうことをするか決まっていました。9月、10月には、担当の先生と講師やコーディネーターが打合せを行いました。祭り当日は、私とコーディネーターも学校に行き、各教室を回り写真を撮るなどして活動の様子を記録しました。昨年度は2か月前ぐらいに学校から依頼があって動いていました。

講師については、今までしてくださった方に依頼するのが基本です。講師の方の中には公民館の講座

での先生や生徒だった方もいらっしゃいます。その他木工教室は町建築業組合、そば打ち体験はそば屋さん、お菓子作りはお菓子屋さんというふうに、その道の専門家に依頼しています。

社会教育課としては、流れがありますので、まず前年度の方に当たり、いらっしゃらない時はその前年までしておられた方、それでもいらっしゃらない時は新規に探していくという形にしています。

高齢者の講師で、孫と遊んでいるみたいで楽しいとおっしゃる方がおられます。

指導するに当たり、一人ではなく仲の良い人を誘って来て、例えば15、16人の子供たちを7、8人の指導者で教えるなど、他の人を誘って一緒に活動するといった横の広がり、つながりのある形ができています。

(山之口) 技術をもっている人が軸となり、知り合いを連れてくるといったような広がりのある活動になっていると思います。中心人物となりそうな技術をもっている人にまず声をかけていくという方法は、とてもいいのではないかと思います。

(吉永) 10年ぐらいの歴史のある祭りですが、当初は先生方が講師を探しておられました。学校支援地域本部という事業がありましたので、こちらの方にも相談してくださいということを学校の方にお話ししました。それからは学校側の依頼で、例えばそば打ちやお菓子作りの体験で講師をしてくださるお店の方を探し依頼するようになりました。また学校側の希望により新たに講師を探したりすることもしました。そうした中で公民館の講座の先生や生徒さんが講師となるというふうに広がっていきました。

(甲斐) 講座をどうするかについては、社会教育課の方で、ある程度講師の方を確定してもらって、それをもとに講座を決めて講師の方に連絡する形になっています

材料代等でお金がかかる講座については、打合せ時に聞いておき、そのことも含めアンケート希望をとります。講師の方が準備されることもあるのですが、どうしても材料費がかかるというものは、実費ということで参加者に手出ししてもらっています。

Q2 地域の方の感想はどうでしょうか

(吉永) 今年中止になったのですが、この「おすずっ子祭り」を楽しみにされていた方がおられ、「去年参加した者ですが、今年ありますか。」という問い合わせもありました。同じく「フラワーロード」という活動もあるのですが、この活動への参加も楽しみにしている方もいらっしゃいました。こちらの方は、短縮して子供たちと先生、一部の保護者で行うことになりました。

都農南小のことになるのですが、ミシンの学習支援に来てくださる親世代の方がおられ、もう少し支援してくれる人が多いといいですね、と意見をくださった方がいます。

(甲斐) 「フラワーロード」という活動は、駅通りに銀杏並木があり、木と木の間に花壇があります。そこに子ども、高齢者クラブ、自治会、公民館関係者、一部の保護者、社会教育課の方達と一緒に花を植える活動です。地域の方と一緒にまちをきれいにしようという活動ですが、学校側としては、日頃よりお世話になっている地域の方へのお礼の気持ちを込めて活動しています。ただ本年度は、新型コロナの関係で、特に高齢者の方はこの活動を楽しみにされているということだったのですが、吉永係長とも相談をして学校のみで行うことにしました。

Q3 地域のボランティアの方には、どのように依頼をされているのでしょうか。

(吉永) 「おすずっ子祭り」では、前年度までしていただいた方には、電話で連絡をして了承を得るようにしています。その後、学校と連絡を取り、打合せ等の期日が決まりましたら、後日、文書で案内を出しています。

苦勞することは、地域コーディネーターの方がいろいろと動いてくれるのですが、昨年度「おすずっ子祭り」で相談があったのは、版画の講座で指導して下さるのは80歳を過ぎた方なのですが、その方が直前に体調を悪くされたので、講座をどうしようかということでした。講師の方は、当初はできないということで参加を躊躇されておられたのですが、どうにか引き受けてくださいました。

このように講師の方の高齢化の問題があります。昼の時間に時間がとれるとなると現役世代は仕事をされていて無理なので、どうしてもセカンドライフとして活躍している高齢の方に依頼していくということになります。もっと若い方を育てていかなければいけないという課題もあります。でも仕事を休んでまで行ってくださいと言うことはなかなかできません。お店の方や大工の方等には、仕事の一環としてボランティアでお願いすることができますが、サラリーマンの方に報償費としてお金を払うことはできないので、ボランティアとして仕事を休んで参加してくださいとお願いすることは難しいです。ボランティア保険をかけるぐらいです。

ボランティア登録をされている方は、210人前後です。ボランティア募集は学校をとおして行っています。少しずつは増えている状況です。年度初めに登録されている方に連絡をし、今年度もお願いしますと依頼するのですが、もう高齢なのでといって辞退される方も2、3名はいらっしゃいます。

(山之口) 自主的に朝の見守り活動をしたり、昼休み子供たちと遊んだりしたいという方がおられたのですが、何の後ろ盾もなく学校で子供たちと遊んでいて不審者と間違われるといけないので、ボランティア登録をしたいと本人から依頼がありました。幅広くボランティア募集を知らせるために、学校が中心となって発信するのもいいし、公民館長に依頼したり、学校運営協議会にも若い世代の方を取り入れていますので、町には若者連絡協議会という団体があるから、そこでちらしを配ったりしていくのも必要かなと思っています。

Q4 地域学校協働活動推進員の方は、具体的にどのように地域の方に依頼をされているのでしょうか。

(吉永) 社会教育法の改正を受け、学校支援活動から地域学校協働活動になり、これを推進していくことになりました。町としても地域学校協働本部にさらに力を入れようと今準備をしているところです。

これまでは学校からの依頼を待って動き、学校に紹介するという活動を中心にしてきました。今年は新しい地域コーディネーターが来られたので、まずは知ってもらおうということで学校を回り紹介をしていきました。新規ということもありましたので、学校からの依頼を待って動いているという状況です。

新規で依頼がきた時、ボランティアの方を探すのに苦勞しています。都農小学校より、大豆について依頼がきました。当初大豆の栽培をされる農家の紹介のことかと思いきや産業振興課を通して農家さんを探していたのですが、学校とよく話をしてみると、大豆をきな粉にするといった加工のことということだったので、そうしたことをされる農家さんを今探しているところです。

(甲斐) 地域コーディネーターを活用した事例があります。ぶどう園見学という学習があるのですが、これは協力して下さる農家が決まっていますので、社会教育課を通さず、直接農家さんに連絡を取って行っています。これとは別に、新しくスイカを育てようと学習を行いました。なかなかうまく育たなかったのが、地域コーディネーターに相談してスイカ農家さんを紹介してもらい、その方に育て方のアドバイスをもらったということがありました。非常に助かりました。

(山之口) 地域コーディネーターの活動として、今年挨拶で各学校を回ったことその他、職員研修や職員会議の中でこういうことができます、ぜひ依頼してくださいといった積極的な声かけもしていました。こうしたことをきっかけにして、先生方の働き方改革にもつながりますが、自分たちで探さなくてもいいんだとか、こういったことを聞いてみようということになります。そうすると今度は地域コーディネ

ーターが地域に出て行って人探しを始めますので、これは非常によいシステムだなと思っています。

(吉永) 都農南小では、赤ペン先生の依頼がありました。これは「チャレンジ赤ペン先生」といって15分のドリル学習で行った問題の丸付けを、先生の代わりに行う内容です。各学年1人で計6人の方にしてもらっています。模範解答があるのでそれにしたがって丸付けをしていますが、質問については先生にするようになっていきます。ここ数年参加しておられる70代の方がおられ、今年もしたいという申し出があったのですが、新型コロナの関係で学校の方で中止となっていますと話をしたことがあります。

家庭科の裁縫の学習で、先生が一人で型を取る指導や数台のミシンを見て回っての指導は大変だということで、ミシンの学習支援だけに5、6人の方に行ってもらいました。事前に先生と支援してもらうことについて打合せをしてもらいました。授業では、先生は型の指導を中心にしてもらい、ボランティアの方にはミシンの学習支援をしていただきました。これは6、7年続いている活動です。

都農東小は、伝統的にPTAの協力がある所です。特に内野々分校はPTAの協力がないと行事が実施できないような学校です。だから学校が困っていることがあると、PTAが動き問題を解決してくれるので、これまで学校より教育委員会への協力依頼はありませんでした。最近は少しずつ依頼があって、都農東小もおすす子祭りの縮小版みたいな交流会をしたいということがありました。ここ3年ぐらいになるのですが、講師の方を探したりしています。その他、わらを使って縄を結び「注連飾り(しめかざり)」を作っています。土俵をつくってみたいという依頼もありました。

私が三校で行ったことですが、6年生の歴史学習の「日本のあけぼの」の所で、私が専門ということで依頼があり、地域学校協働活動の一つとして話をしました。私が触ってこわれてもいいような縄文式土器や弥生式土器を準備しました。両方を子供たちに触らせ比較させながら土器の特徴の話をしました。子供たちに話をするのは、とても楽しかったです。

(甲斐) 今年はお呼びしませんでした。本校では、三先生を偲ぶ伝統のある行事があり、戦争を知っておられる方を講師として呼んで話をしてもらっています。太平洋戦争中、軍人訓練のお世話のため登校しておられた三人の先生が、空襲を受けて殉職をされました。この先生達の冥福を祈り平和について考え、平和を祈るために三先生を偲ぶ会を実施しています。6年生が戦争について学習したことの発表もします。

この他に社会連絡協議会の行事なのですが、幼稚園、三小学校、中学校、高校が連携して町をきれいにしようという活動を1月に計画しています。15班ぐらいの縦割班を作って行うのですが、15人ほどのボランティアの方に来ていただいています。

Q5 地域と学校とが連携して活動することの良さはどのようなものがあるでしょうか。

(甲斐) 見守り活動等いろいろとしていただいているのですが、活動に参加することにより地域の方が学校の教育活動を知るといったことがあります。一方、子供たちは、地域にこういった方がおられるということを知ることができます。お互い知ることによって交流が生まれてきます。こうしたことで、学校が企画した行事以外に地域での行事でも交流しやすくなっていると思います。また子供たちは、地域に伝わる伝統文化を知り、それを次の時代へとつなげていこうとする態度も育ちます。

(山之口) 家庭教育サポート推進事業が2年目なのですが、保護者に声かけをして集まってもらい講座を開くというのはなかなか難しいです。学校の参観日には保護者が来られますので、その機会を利用し、こうした支援ができますとかこんな活動をしていますといったことを広報しています。

学校だけではなかなかできないことがあると思いますし、地域の方と力を合わせると効果的になる活

動があると思います。家庭教育支援ではありますが、そういった活動を企画しているところです。例えばウォークラリーといった、安全面で非常に神経を使うものに対し、地域のコーディネーターを中心にいろんな人材を集めて安全面への対策を支援していくといった活動です。

今年は保護者の皆さんが、どんな活動をすれば親子が一緒に楽しめるかということ、地域のコーディネーターを中心にボランティアの皆さんの目線で考えていく、自分たちで活動を作っていくという良さを感じられる部分があったかなと思っています。

(吉永) 私は文化財担当でもあるのですが、赤木家住宅という国の重要文化財である幕末の頃からの民家が町内にあります。お殿様が休憩や宿泊をしたり、食事を取ったりした場所でもあります。持ち主の方は亡くなったのですが、今ここを修理しています。後々には町有化していきたいと思っています。そこで子供たちには地域にある文化財を知ってもらい、教材として学校で活用してもらえればと思っています。3、4年生は社会の地域の学習で来てもらったことがあります、私としては6年生の歴史の教材としても活用してもらったらと思っています。

他に、地域から集めた昔の道具で千歯こきや唐箕等があります。今都農東保育所旧園舎に置いていますが、これも地域に残る教材として学習に使ってもらいたいと思っています。

このように地域にはいろいろなものがありますので、教材として活用していただきたいと思っています。

Q6 課題についてどのようなものがあるでしょうか。

(甲斐) 昨年度と同じことをする時は、学校で同じ人に声をかければよいのですが、新しい活動をしようにしてそれを知っている人を探す時、人材が分からないので、その時は社会教育課に相談できるので助かっています。

「おすずっ子祭り」や「フラワーロード」等は有意義な活動なのですが、それを行うための労力が大変だなと思っています。そこで、もう少し行う方法を整理していかないと、いい活動なのに長続きしていかないのではないかとと思っています。

(吉永) 一番感じていることは、ボランティアの方の高齢化があります。他には、例えば地域の方に学校で祭りがありますから行ってくださいと声かけはしやすく、地域の方も学校に行きやすいのですが、逆に地域で祭りがありますから、学校からも行ってくださいというのは難しいと思っています。子どもの場合もけが等の事故の心配があるので参加を呼びかけにくいです。学校と地域との双方向のやりとりができる何かきっかけとなるものがあるといいなと思っています。一つの例として都農中は夏祭りの時、3年生は必ず神輿を担ぐということが伝統になっています。中学校では、地域の祭りに生徒が参加しているという捉え方をされていると思いますが、このように地域の行事に子供たちが参加するようなことが小学校でもできるといいなと思っています。

(甲斐) 都農小学校では、4年生以上が毎年町の行事に参加するようになっていました。今年は新型コロナの影響で参加ができなかったのですが、6年生が夏祭りで、5年生がワイン祭りで、4年生が産業祭りでエイサーや花笠踊り等を踊っています。運動会より前にある祭りですので、祭りで踊りを作って、運動会で完成させるといったような流れになっています。踊りの指導は、学校でしています。

(吉永) 都農南小校区に下別府という地区があり、そこには「下別府棒踊り」というのがあります。長らく途絶えていたのですが、平成4年ごろ中学生に教えたいということで踊りが復活しました。その後保存会ができ、踊りを都農南小の5年生に教えることになりました。そして運動会やワイン祭りで子供たちが踊りを披露しました。踊りで使う袴などは町がそろえ、今は下別府棒踊り保存会の皆さんが、都

農南小の5、6年生に体育の時間に踊りを教えています。

（山之口）今は学校支援という部分が強いかなという感じなのですが、地域学校協働本部は立ち上がっていて、来年度は本部長が決まり地域コーディネーターも別に付けます。今地域で活動している人達が本部の中で一緒になり、都農の子供たちをどのようにしていくのかという思いを一つにしていくことが課題です。それをした上で、それぞれがやっている活動をうまくつないでいくことが重要です。熱心に学校に関わっておられる方をばらばらにならないように協働本部が中心となってつないでいき、子供たちを育てていくことが大切なことと思います。多くの子ども達が都農中に進学しますので、9年間を見通した活動ができてくるといいのかなと思います。

都農中に学校運営協議会があり、若者連絡協議会やアシスト企業の税田さんとかいろいろな方が入っておられます。まちづくりで関わっておられる（株）イツノマの中川社長もオブザーバーで参加されています。ここで話し合われたことはキャリア教育にもつながっていますので、このことを協働本部長や地域コーディネーターを中心に広報して地域の方に知ってもらえると、私も協力したいと手を上げてくれる方も増えるのかなと思います

Q7 皆様からそれぞれ今後の展望について教えていただけませんか。

（甲斐）「おすずっ子祭り」や「フラワーロード」といった活動を来年度計画する時に、参加者がどうしても高齢者なので、コロナ禍で三密を避けるような活動の工夫をしないといけないというのが、展望というより課題です。せっかくの地域と連携した活動なので、練り直しをしていこうというところです。

（吉永）来年度地域学校協働活動推進員等がもっと学校や地域に入ってきて、それぞれを結びつけていくような地域学校協働本部としての活動をしていくことが目標になります。